

(別紙 9)

山形県におけるクマ類の調査の実施に係る計画/評価報告
(調査・計画策定事業)

1 現状のクマ類の調査の状況及び課題等

これまで目視調査を中心とした生息状況調査を実施してきたが、猟友会会員の高齢化による移動距離の減、小雪の影響等から目視できるサンプル数が少なく、的確な生息状況を把握できないものとなっている。

また、限られたリソース（予算、人員）で、調査だけでなく、被害対策に取り組んでいくことが課題である。

このため、大学研究機関の協力を得ながら費用対効果の高い生息状況調査を確立していくもの。

具体的には、県内の3つの保護管理ユニットごと捕獲数の多い地点を選定し、この地点の捕獲の影響を受けると想定される主要生息域において、定点カメラ調査により撮影頻度を算出する。継続して調査することにより生息数の増減傾向を把握し、翌年度以降の対策を検討する基礎資料として活用する。

多額の費用を要する県全域の生息数の絶対値の算出に比べ、安価に対策検討の基礎資料となる生息状況を把握することできる。

2 実施する調査の具体的な内容等

実施時期	令和7年4月～令和8年3月
場所	県内全域
目的・必要性	ツキノワグマの生息状況を把握し、対策を検討するための基礎資料とする
調査主体	山形県
内容・得られる情報	主要生息域における生息数の増減傾向
方法	県内の3つの保護管理ユニットの主要生息域において、定点カメラ調査により撮影頻度を算出し、継続して調査することにより生息数の増減傾向を把握する。
活用方法	対策を検討するための基礎資料とする。 主要生息域の生息数が増加傾向であれば、絶滅は防げると考えられるので、侵入防止柵や放置果樹の伐採等の市街地出没抑制対策を推進するとともに、市街地等に出没した個体は捕獲する。 減少傾向であれば、絶滅の危険があるので捕獲抑制措置の発動等を検討する。
事業費	7, 473, 400円
備考	

注：事業前の計画では各項目について想定又は期待される内容を、事業終了後の評価報告では各項目に関する実績や結果を具体的に記入すること。実施する調査が複数ある場合は、調査の種類毎に各項目を記入すること。

3 調査結果及び考察（事業終了後の評価報告時のみ）

本県内にある保護管理ユニットにおいてクマの主要生息域である奥山に 93 地点カメラ設置による R A I 調査を実施した。保護管理ユニットや月別での撮影頻度の傾向が現れる結果となった。

一方、令和 7 年はブナ・ナラ類が大凶作だったこともあって、秋の撮影頻度が低くなり、奥山から里山を含む人の日常生活圏へ移動したと推察された。令和 8 年度からは、奥山に加え里山でも調査を行い、データを積み重ねることで、生息数の増減傾向把握の手法を確立させていく。

注：調査によって得られた情報と分析結果、調査結果の活用方法等を記載するとともに、今後の改善点や必要な調査等についても記載すること。

4 その他

注 1：モニタリング・調査の実施に当たって、特記すべき事項があれば記入すること。

注 2：事業終了後の評価報告において、特記事項に対するコメントがあれば記入すること。